

2018年12月22日

総理大臣 安倍晋三様
国土交通大臣 石井啓一様
防衛大臣 岩屋 毅様

沖縄の命（生きとし生けるものすべての生きる権利）への暴力に抗議します

6・23 沖縄（命どう宝）推進委員会
日本バプテスト女性連合役員会

沖縄・辺野古では、21年前より戦争につながる新基地建設に反対する非暴力の座り込みが、沖縄戦で辛酸をなめた地域の高齢者によって続けられています。そのうねりは沖縄から全日本、全世界に広がりを見せています。それにもかかわらず、政府は2018年12月14日、命そのものである辺野古の海に土砂投入を強行しました。戦後何もかも失った県民に、生きる糧を与えてくれた豊かな海に。

辺野古の海への「土砂投入」は、戦争を否とする沖縄の人びとの尊厳をかけた決意と祈りを無視することであり、人権侵害、国家権力による暴力です。さらに、辺野古新基地は決して普天間基地返還を保証するものではないにもかかわらず、国民を欺き「普天間か、辺野古か」と沖縄の人びとに選択を迫り分断を深めるやり方は、決して許すことができません。

73年前の「本土」防衛の時間稼ぎの沖縄戦、戦後の沖縄分断、復帰後の沖縄への米軍基地集中と、今も変わらない「本土」防衛手段とされ続けている沖縄。もうこれ以上、沖縄を苦しめないでください。沖縄の命を脅かさないでください。

私たちは、神によって創られたすべての命が大切にされることを願い、平和を祈るものです。民主主義を尊重し沖縄の民意と真摯に向き合い、辺野古の海への土砂投入を即刻中止することを要請し、辺野古新基地建設強行に対し強く抗議します。

以上